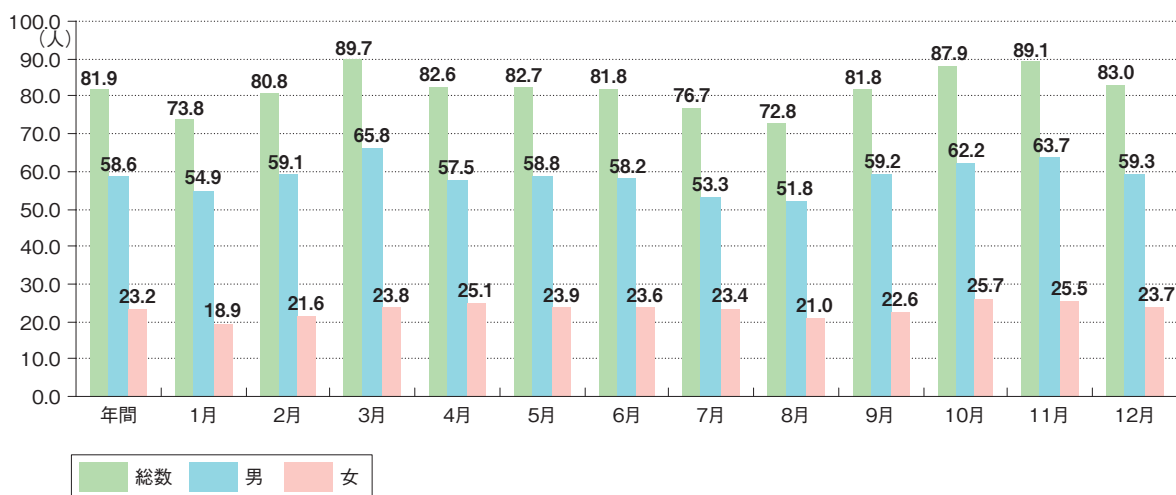


【第1-1-30図】平成18年における月別の一日平均自殺者数(概数)



資料：厚生労働省「人口動態統計」より内閣府作成

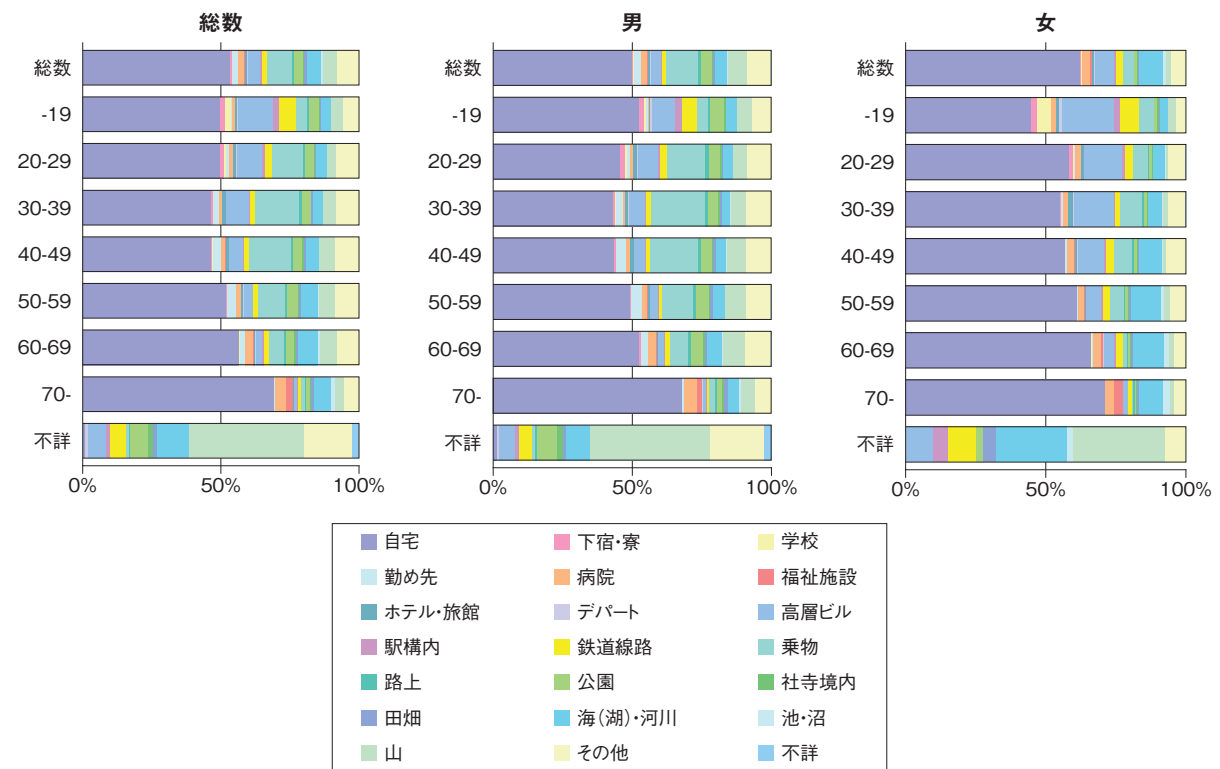
## 12 自殺の場所、遺書の有無、配偶関係別の自殺の状況

自殺の場所別の自殺の状況について自殺の概要によれば(第1-1-31図)、「自宅」1万7,213人(53.5%)が最も多くなっており、次いで、「乗物」2,948人(9.2%)、「海(湖)・河川」1,746人(5.4%)、「山」1,707人(5.3%)、「高層ビル」1,463人(4.5%)、「公園」968人(3.0%)、「病院」697人(2.2%)、「勤め先」642人(2.0%)、「鉄道線路」581人(1.8%)、「ホテル・旅館」254人(0.8%)、「路上」254人(0.8%)、「田畑」238人(0.7%)、「福祉施設」182人(0.6%)、「社寺境内」173人(0.5%)、「池・沼」167人(0.5%)、「駅構内」159人(0.5%)、「下宿・寮」156人(0.5%)、「学校」57人(0.2%)、「デパート」49人(0.2%)の順となっており、全ての年代において、「自宅」が最も多くなっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」1万1,390人(49.9%)が最も多く、次いで「乗物」2,588人(11.3%)、「山」1,544人(6.8%)の順となっている。女性については、「自宅」5,823人(62.3%)が最も多く、次いで「海(湖)河川」783人(8.4%)、「高層ビル」657人(7.0%)の順となっている。

年齢階級別にみると、男女とも全ての階級において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで多いのは、19歳以下の階級は「高層ビル」、20歳～59歳までの階級は「乗物」、60歳以上の階級は「山」である。女性については、「自宅」に次いで多いのは、49歳以下の階級は「高層ビル」、50歳以上の階級は「海(湖)・河川」となっている。

【第1-1-31図】平成18年における年齢階級別の自殺の場所別の自殺者数の構成割合

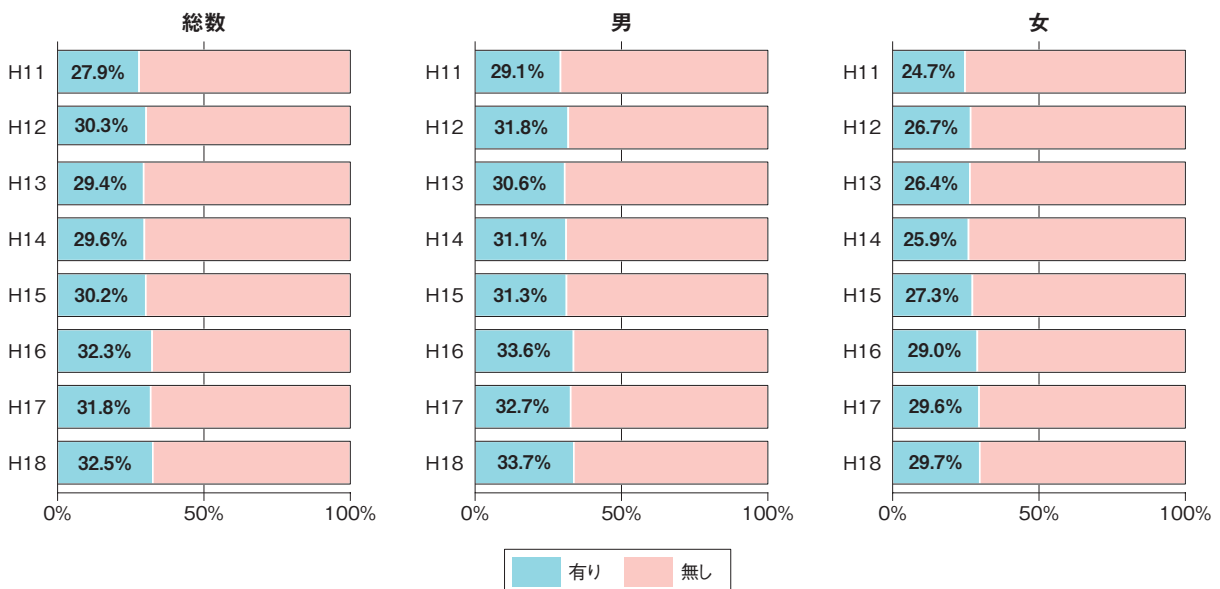


資料：警察庁「自殺の概要資料」より内閣府作成

次に、自殺者の遺書の有無の状況について自殺の概要によれば（第1-1-32図）、自殺者の約3割が遺書を遺している傾向が続

いている。男女別にみると、男性が女性よりも遺書を遺している割合がやや多い傾向が続いている。

【第1-1-32図】遺書の有無の状況の推移



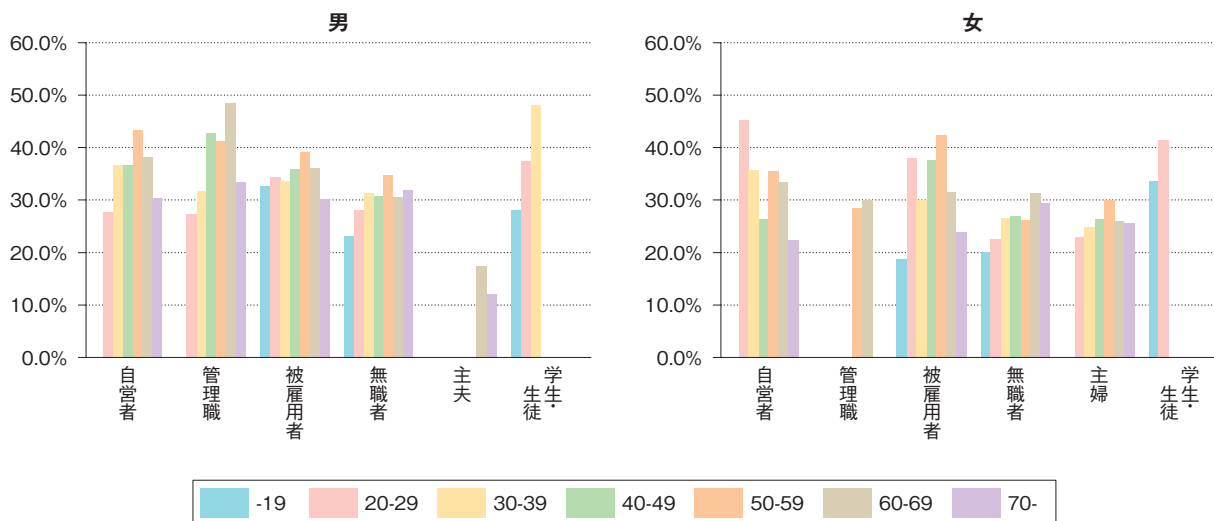
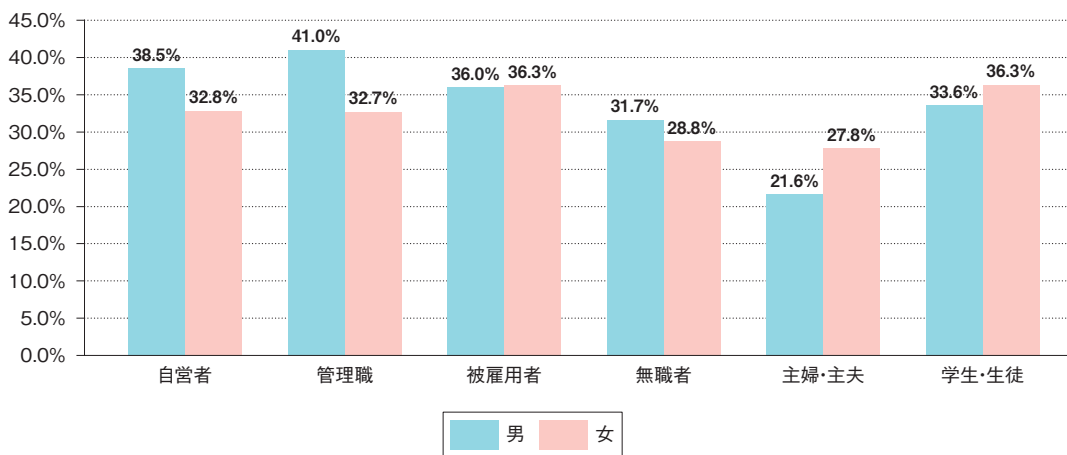
資料：警察庁「自殺の概要資料」より内閣府作成

次に、平成18年において職業別に遺書を遺している割合をみると（第1-1-33図）、男性については、「管理職」が41.0%と最も多く、次いで「自営者」（38.5%）、「被雇用者」（36.0%）、「学生・生徒」（33.6%）、「無職者」（31.7%）、「主婦・主夫」（21.6%）の順となっている。女性については、「被雇用者」、「学生・生徒」が共に36.3%と最も多く、次いで「自営者」（32.8%）、「管理職」（32.7%）、「無職者」（28.8%）、「主婦・主夫」（27.8%）の

順となっている。

さらに、年齢階級別についてみると（第1-1-33図）、男性では、40歳代～60歳代の「管理職」、50歳代の「自営者」及び30歳代の「学生・生徒」で遺書を遺している割合が40%を超えており、女性では、20歳代の「自営者」と「学生・生徒」及び50歳代の「被雇用者」で遺書を遺している割合が40%を超えている。

【第1-1-33図】平成18年における職業別の遺書を遺した自殺者の割合



注意：男女別・年齢階級別の遺書を遺した自殺者の割合については、自殺者数が10名以上の場合のみ計上している。

資料：警察庁「自殺の概要資料」より内閣府作成

次に、配偶関係別の自殺死亡率の状況をみると(第1-1-34図)、男女とも、「有配偶」は全ての年齢階級で総数よりも低くなっている一方、「未婚」、「死別」、「離別」は総数よ

りも高くなっている。特に、30歳代～50歳代の男性の「離別」は、女性の「離別」の倍以上も高くなっている。

【第1-1-34図】平成12年における配偶関係別の自殺死亡率の状況

男						
年齢階級	総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
総数	1.00	0.56	0.74	1.04	1.57	1.21
有配偶	0.82	0.22	0.39	0.69	1.14	0.95
未婚	0.87	0.61	1.12	1.84	2.96	3.13
死別	2.44	—	—	2.72	3.73	2.25
離別	5.02	4.01	4.28	4.64	6.25	4.42
女						
年齢階級	総数	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
総数	1.00	0.69	0.68	0.73	1.11	1.54
有配偶	0.76	0.34	0.46	0.55	0.87	1.15
未婚	0.83	0.78	1.15	1.76	2.38	1.98
死別	1.96	—	—	1.10	1.66	1.99
離別	2.22	2.47	1.94	1.75	2.56	2.37

注意：総数（15～19歳及び年齢不詳を含む。）の自殺死亡率（男：41.6、女：15.6）を1としたときの比率

資料：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」より内閣府作成

### 13 自損行為の状況

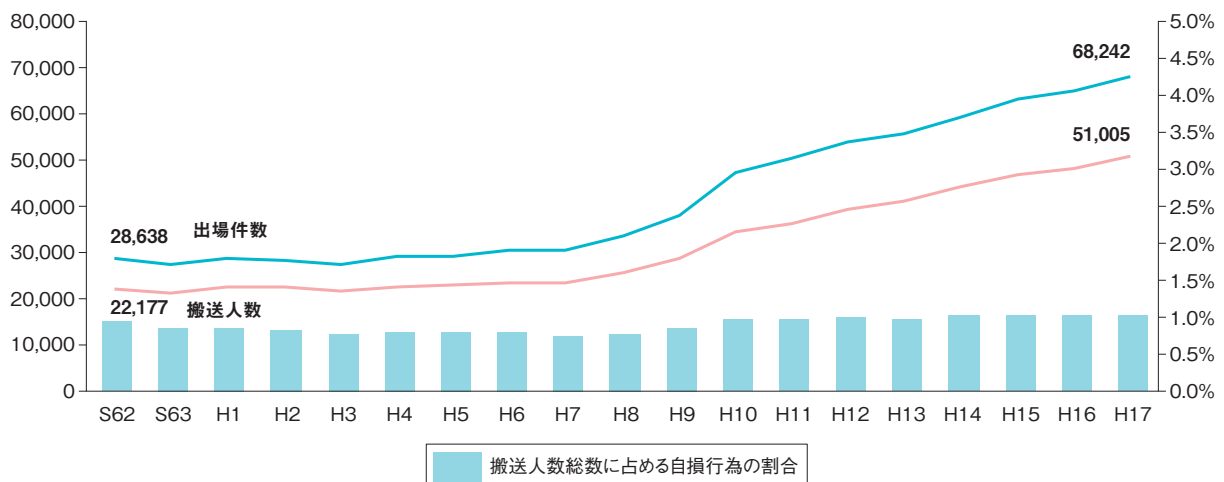
自損行為の状況について消防庁の救急・救助の現況によれば(第1-1-35図)、自損行為による救急自動車の出場件数及び搬送人数はともに増加傾向にある。

特に、自殺者数が急増した平成10年には、出場件数及び搬送人数ともに大幅に増加している。その後も増加を続け、平成17年にお

ける出場件数は6万8,242件、搬送人数は5万1,005人となっている。

また、搬送人数総数に占める自損行為の搬送人数は、搬送人数総数も同様に増加しているため横ばいで推移しており、平成17年は1.0%となっている。

【第1-1-35図】救急自動車による自損行為の出場件数及び搬送人数の推移



資料：消防庁「救急・救助の現況」より内閣府作成